



Title	和歌
Author(s)	音代, 湘園
Citation	懷徳. 1939, 17, p. 52-52
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/89032">https://hdl.handle.net/11094/89032</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

和歌

近詠

仲田應弘

ゆづりたる席に婦人はアツパツパをはだけて大きな乳含ませぬ  
引皮の間に手をばさし入れて軍馬勞る汗たるるままに  
じやんけんをしてはらからの三人の其の幼きが浮輪持ちちゆく  
ささ濁り淺瀬の方に浮びたる子供の頭刈りたてにして

八月八日 晴雄に令狀來る

弟の召より歸り來るまでにこの上瘦せずあらむ母はも

人

音代 湘園

噫忠烈從軍僧の熱辯に聽衆歔歔す涙新し（工兵少尉にして身延山の僧なり）  
辛じて「天皇陛下萬……」までをかすかに唱へ果てしつはもの  
應召兵を送る軍歌の列つづく防空演習の暗黒の都市（事變發生當時）  
敵機九百我空軍の羽搏きに慥伏したる蒙古國原  
皇軍の恩威に集ふ民衆の新生の叫び聞きにけらすや